

# Newsletter

February 2014

<http://www.aack.or.jp>

目次

北大山岳館を訪ねて 芳賀孝郎……………	1
高山病予防知識と登山倫理の普及 について — 阪本公一君の論説(ニュースレター No.67)を読んで — 中島道郎……………	3
図書紹介 書名 野村直吉船長航海記 野村直吉船長航海記出版委員会・編 発行者 成山堂書店、平成二四年 定価 本体三〇〇〇円 沖津文雄……………	5
第二七回雲南懇話会の概要 前田栄三……………	7
AACK会員専用、日本山岳協会 山岳共済会および山岳遭難・搜索 保険の案内……………	8
事務局連絡……………	12
会員動向……………	12
編集後記……………	12

## 北大山岳館を訪ねて

芳賀孝郎

北大正門から入り農学部、旧理学部(資料博物館)、工学部を過ぎると恵迪寮への標識がある。恵迪寮の前を通り過ぎるとポプラ・楓・こぶし・檜・ドロ柳等の木々に囲まれたログハウスの建物が北大山岳館である。正門から歩いて約二〇分の道のりである。

建物は二階建て、床面積二二〇㎡である。集会室・図書室・閲覧室・クラブルーム・ロフト・給湯室・水洗トイレが配置されていた。全館電気暖房で冬でも快適である。入ると、正面に北大山岳部が一九八二/八三年冬季初登頂したダウラギリの写真が飾ってあった。記帳台の上に銅版があり「北大山岳館建設の趣意」が刻まれていた。

「北大山岳館は、北大山岳部が創立七〇周年を迎えるにあたり、山岳部出身者の会である北大山の会が、その記念事業の一環として建設し、北海道大学に寄贈したものであります。

山岳館建設の目的は、登山、探検、地球環境保全、途上国援助などに関

心の深い学生諸君に会合の場を提供し、また大学内外の先達、先輩たちとの交流の場として役立てることにあります。さらに、北大山岳部が創立以来収集・保有してきた貴重な内外の山岳・探検に係る図書・地図等を整理・保管し、新たな資料も加えて有効な活用を図ることも目指しています。

この山岳館が北大独自の学生施設となり、自然を愛する学生諸君の活動と発想の拠点として、今後永く利用されることを願うと共に、建設の趣旨に賛同され多大のご支援を賜った多くの方々に深甚なる謝意を表します。

平成七年三月六日 北大山の会

集会室は、五〇名程度を収容できる。主に学内クラブの集会、セミナーなどに使用されている。年二回の講演会にも利用され、講演は一般市民にも公開されている。

図書室は、北大山岳部創立(一九二六年)以来、部員が管理してきた登山と探検に関する図書を基本的に収蔵している。山岳館設立以降は内外から多くの寄贈があった。購入した図書も追加された。図書目録の編集は、二〇一二年五月末・現在の山岳館文献ファイルから和書・



北大山岳館

洋書・部報・会報・和雑誌・洋雑誌・地図・  
旧版地図・ビデオDVDに分類されている。  
書籍の配置番号は、図書館のパソコンで検索  
可能である。また北大山岳館ホームページ  
で検索できる。  
蔵書数は左記の通りである。(二〇一二年六  
月の図書目録)  
和書・全集 五四集・四四三冊  
和書・単行本 三〇九六冊  
洋書 四五六冊  
部報・会報 二三五誌  
和雑誌 六〇誌  
洋雑誌 二〇誌

地図 五五一枚  
旧版地図 四七七枚  
ビデオ・DVD 四九巻

閲覧室にはパソコン三台とプリンター一台  
が配置されている。図書はすべてデータ化さ  
れ、七〇〇〇枚の写真も検索することが出来  
る。

ロフトには長椅子とテーブルがあり、会談、  
休憩、読書するのに適した場所である。

クラブルームは山岳部創立以来のルームノー  
ト、各種計画書、書信、山小屋日誌、写真、  
山道具など歴史的資料が保管されている。展  
示品については、北大山岳部出身の画家・坂  
本直行ほか絵画一五点と多数の写真、古地図  
が展示されている。北海道栄誉賞と朝日体育  
賞が展示されていた。これらはダウラギリ冬  
期初登頂に対しての賞である。

山の道具の展示は、大正末期から昭和にか  
けてのピッケル、シュタイクアイゼン、ス  
キー、シール、輪カンジキ、麻ザイル等で、  
その中に四手井綱彦先生のピッケルがあつ  
た。

山岳館のメンテナンスは大学が行い、管  
理・運営は山岳部と山の会が選任した運営委  
員会が行っている。館の一般公開は、毎週水  
曜日と土曜日の午前一〇時から午後四時まで  
となっている。この日は運営委員が常駐して、  
来館者の対応に当たっている。

上記が北大山岳館の概要である。

私は、二〇一二年六月AACCKアンチヨコ  
会員二〇名を山岳館に案内した。そこで北大

山の会会員から山岳館の説明を受け、資料の  
管理について意見を交換し交流したことが  
あった。昨年は日本山岳会スケッチクラブの  
会員一五名も案内している。AACCK会員は  
来札の機会があれば山岳館を訪問することを  
お勧めする。

参考・北大山岳部は北大スキー部から独立し  
一九二六年伊藤秀五郎らにより創立された。  
北大スキー部は日本最古スキークラブ(創  
立一九二二年)で一昨年一〇〇周年を迎え、  
一〇〇年記念誌が出版された。

それによるとスキー部の第二代スキー部長  
は並河 功先生が一九二〇年〜二一年迄務め  
ておられる。

木原 均先生はスキー部員として一九一八  
年ジャンプ競技の合宿に参加しておられる。  
一九二九年には大倉山シャンツェ建設提案者  
のノルウエー・オリンピック監督ヘルセツト  
中尉のドイツ語の通訳、ノルウエースキー連  
盟の組織等を導入して日本スキー連盟の基礎  
を作り上げた。後に日本スキー連盟会長と国  
際スキー連盟副会長を務められた。

# 高山病予防知識と登山倫理の普及について

— 阪本公一君の論説（ニューズレター No.67）を読んで —

中島道郎

暮に届いたAACKニューズレターNo.67…二〇一三年一二月号を早速拝見、巻頭の阪本公一君の二つの論説『ラダックの旅』・『高所肺水腫・脳浮腫の恐ろしさ』を興味深く拝読した。特にその後者の論文（肺水腫・脳浮腫）で彼が言わんとするところは、この二疾患における本当の恐ろしさは、病氣自体の恐ろしさは勿論ながら、多くの高所登山者がその疾患の恐ろしさを教えられずにそのまま登山隊に加わっている、というその現状と、そしてその方が疾患そのものよりも、もっと問題なのだ、と主張している論説であると理解した。

今や年間数百人の登山者がエベレストの頂上を踏んでいる、と聞く。その人数の割には遭難事故の報道が少ないように思うが、それは発生件数が実際少ないのか、あつても報道されないだけのことなのかという点、阪本君が僅かの実例から報じている処から推測するに、多分、それだけの人数を登らせているからには、もはや一々取りあげておられないほどの人数の高山病症例が発生しているに違はなく、それが表沙汰にならぬよう、旅行社は並大抵ではない努力を払っているのではな

らうか、と想像する。

日本の有力登山旅行社数社は申し合せて、日本登山医学会員有志と契約を結び、その顧客に対し、契約医師の処で『登山者検診』を受けるよう要望している。京都では私と齋藤惇生君が検診窓口を引受けているが、その制度について、阪本君の主張から次のような重要なヒントを貰ったと考える。つまり、受診者にとつて、登山医学会員の前に坐ることは、高山病に関する個別指導を受けるまたとないチャンスなのである。立場を変えて申せば、登山者検診契約医師全員が、その受診登山者の個別指導者たることを自覚すべきである、ということである。これはいいところに気付かせて貰った、と阪本君に感謝したい。この五月末、東京で開催される予定の日本登山医学会学術集会の席上で、学会員全員に向かつて、その一人一人が高山病の個別指導者として活動してくれるよう、アツピールしたいものだと考えている。

彼のもう一つの主張は、登山倫理の問題について、だと理解する。それに対して参考になると思われる宣言書が国際山岳連合（UIAA）から出されており、それを私は平成二三年一月に翻訳しているので、それを此処にご披露したい。わがAACK会員諸兄は全員が、我が国登山界における指導的立場に立つ存在であるからには、UIAA宣言に則した指導をして貰いたいと思ひるが故に、一度は目を通して頂きたいと思ひ、此処にご紹介する次第である。

平成二三年一月二七日

中島道郎 訳

## UIAA（国際山岳連合）登山倫理宣言

志は高く持ち。技を鍛え、以つて頂上を目指せ。

### 1、自己責任

登山・登攀は、事故の危険性の高いスポーツであり、且つ、起こつてもすぐ救助して貰える保証はない。それを十分自覚して、すべて自分の責任において行動しよう。自分自身の安全は自分で守ろう。また、自分が原因で周囲の人たちを危険に曝す行為とか、環境を破壊する行為、たとえば、新ルート・既存ルートを問わず、そこに楔を打ち込んだままにして当然、とする行為等は、これをしない。

### 2、チーム魂

チームを組んだ場合、皆それぞれ、そのグループの必要と能力に応じて、お互い譲り合うよう、心がけよう。登山というスポーツは、仲間同士お互い助け合い励ましあつて登るところに本当の楽しみがある行為なのだ。

### 3、登攀・登山共同体

山道で、或いは岩場で出会う人は皆平等であり、誰もが互いに敬意を払い合おう。人里はなれた深山とか、緊張を要する難所でのモットーは、常に、「己の欲するところを人に施せ。」である。

#### 4、外国に行ったら、

外国へ行ったら、人は皆その国のお客さんである。いつも礼儀正しく、つましく振舞おう。その土地の人々及びその人たちの文化を尊重していることを態度に表わそう。その土地の山登りの決まりと様式に従い、穴を穿ったり、ボルトを打ち込んだりしてはならないと決められた所には勿論のこと、そのような決りがない所でも、決してそういう行為はしないようにしよう。聖山とか神聖な場所と言われているところには敬意を表し、常に、その土地の経済や人々に役立つ方法を探し、援助しよう。外国の文化を理解してこそ、完璧な登山経験をした、と言うことが出来る。

#### 5、登山ガイド並びにその他のリーダーたちの責任

プロ・ガイド、その他一般のリーダー、および彼らに率いられたそのグループのメンバーたちは、お互いに、それぞれに決められた役割を理解し、その他のグループの個人の自由と権利を尊重しよう。当宣言に言う職業登山ガイドとは、高水準の優れた登山技術を身につけているものと認められる者のことである。

#### 6、死亡事故に繋がりがかねない重大緊急事態

そのことを、我々は常に念頭に置いておかなければならない。山岳スポーツに携わる者は、その誰もが、山が持つ危険の頻度と障害の程度を明確に理解していて、且つ、それに相応しい技術・知識・装備を身に付けている

べきである。そして、もしも生命にかかわる重大事故に遭遇した場合はいつでも対応出来る心掛けでいること。しかもそれは、連鎖的に最悪の事態へと行きつくことになるかもしれない、という覚悟をもって事に当るべきである。特に商業登山の場合、緊急事態が起こったら、他人を助けるために、自分たちの予定を犠牲にせねばならないことがあるかもしれないということ、あらかじめ顧客に対し警告しておくことが望ましい。

#### 7、登路と自然保護

我々は、山や岩壁に、真面目に立ち向かう限り、どこをどう登ろうと自由である、という基本的な権利を有すると信じている。我々は自然に対して、これを傷つけないよう、自然や景観を保全するよう、配慮しつつ行動しよう。我々登山者たちは常に、自然保護団体や行政と一緒にあって取決めた入山制限や規則を尊重しよう。

#### 8、登攀様式

経験の質や問題解決能力を高めることは、単に登頂に成功することよりもずっと重要である。常に、山肌や岩肌に痕跡を残さないように努力していこう。

#### 9、初登

初登攀や初登頂は素晴らしい行為である。それは、少なくともその地方の様式とか伝統に出来るだけ適ったやり方で遂行していこう。踏破ルートの正確な記録は、作成して後

世の為に残しておこう。

#### 10、後援行為、広告、広報活動

山登り・岩登りをする者とそれを後援するものとの協調は、山岳スポーツに最良の利益をもたらす様な職業的関係であってほしい。メディアと大衆の両方を積極的に教育し導いてゆくことは、山岳スポーツ界の責任である。

#### 11、登山における補助酸素使用

高所登山における補助酸素使用の是非は数年来の論争の種であった。この論争の争点は、医学的観点からと倫理的思考からの二点に要約される。医学的観点から言えば、酸素使用は当然で、どの高さから開始すべきかの問題である。それに対して、倫理的思考からは、酸素使用は個人個人の判断に任ずべきで、他人がとやかく言う問題ではない。しかし、もし使用するとしたら、空きボンベは持ち帰ることを前提とした登山計画をたてるべきである。

#### 12、商業的遠征高所登山

商業的企画運営者はとくに、一旦事故が起これば助ける手立ての無い、八〇〇〇m峰なしそれ同等の山々に、それに相応しい実力を持たない顧客を案内する場合、彼らの能力限界をよくわきまさせることが望ましい。かかる顧客達の安全を確保するためには、あらゆる努力を講じるべきであり、そしてまた、偶々山中で緊急事態に遭遇した場合には、その人々を助けるために、自分たちの計画を割

愛せねばならないこともあり得ることを、予め警告しておくべきである。

## 図書紹介

沖津文雄

書名 野村直吉船長航海記

野村直吉船長航海記出版委員会・編

発行者 成山堂書店、平成二四年

定価 本体三〇〇〇円

白瀬大尉が指揮した南極探検の探検船「開南丸」が芝浦沖を出航したのは、一九一〇年一月二十九日である。船は航海の途中オーストラリアのシドニーに一度と、ニュージーランドのウエリントンには二度寄港したが、再び芝浦沖に帰港できたのは一九一二年六月二〇日であった。開南丸は南極大陸へ二度にわたる挑戦しており、第一次航海ではウエリントン経由で南極大陸に直行した。しかしロス海の入り口付近まで航行して、南緯七四度一六分の地点から引き返し、一九一一年五月一日シドニー港に到着している。第一次航海では時期も遅くて結氷が激しく、開南丸が進航できるといふような海象状況ではなかつたらしい。シドニーで艤装を追加し、要員も入れ替えた後、第二次航海は一九一一年一月一九日にシドニーを出発し、一九一二年一月一六日にロス氷棚への接岸に成功した。白瀬隊長を含む四名の上陸隊は一四日間の極地活動の後、二月四日に氷棚を離れ、同年三月二三日にウエリントンに寄港後、全員無事で芝浦に帰国した。

それ以前には極地探検の経験のまづたくなかつたわが国の探検隊が、南極大陸に上陸し、その足跡を残し、さらに周辺海域の海洋調査まで行ったのであるから、これはまさに壮挙であった。官民一体となつてこの探検隊を支援したのは当然であろう。AACKの先人達も、京都で開催された白瀬隊長の探検報告会で啓発され、探検への意欲をさらにかき立てられた、と伝えられている。

この航海記は、シドニーを発つた第二次航海の開始から、南極での活動を終えてウエリントンに向かうほぼ三ヶ月間にわたる野村船長の活動を記録したものであるが、本書の編集者による巻頭説明文によれば、本文は開南丸の航海記をもとに野村船長が帰国後に公開を想定して書かれた個人的な記録である。手書きの原文は、石川県羽咋市歴史民俗資料館に保存されているが、今回出版委員会の編集により原文にできるだけ忠実に翻刻されたのである。下書きに近い状態のまま出版されているため、本書が文章としてはやや読み辛いことは否めないだろう。また航海の記録であるから、似たような文章の繰り返しが続くこともあるが、私はこの航海記を(一)出発準備と南極を望むまで、(二)南極大陸に接近し、陸上隊を上陸させるまで、(三)上陸地を離れ、近接海域の調査、(四)上陸隊の撤収とニュージーランドまでの航海、に分けて読むことをお薦めする。

航海記の冒頭では、船長に任命された経緯と困難が予想されるこの探検隊の船長として

の強い決意が綴られている。そして探検隊の内情はどのようなものであつたか？この航海記がその実情を伝えてくれる。その内容は、航海中の日々の活動を記録したものであるが、それ以外にもこの探検への野村船長の心情や、同乗した白瀬隊長をはじめとする探検隊員との交流・葛藤なども記述され、この航海記をさらに興味深いものにしていく。

極地についての未経験の白瀬隊長が、全長わずか三〇・四メートル、総トン数二〇四トンしかない木造の帆船「開南丸」で、南極大陸に接岸し、探検隊を上陸させ、周辺海域を探検した後、全員無事に帰還できたことは賞賛に値する業績であろう。この航海記には、開南丸を操船して探検隊を南極に動員し、日本に帰還させた野村船長の苦難と危険に満ちた航海の様子が、具体的に記録されている。さらに野村船長によるイラスト様の水彩スケッチが口絵として三五葉も含まれている。スケッチは鳥瞰図のような様式で描かれ、開南丸の全体的な状況を説明しており、読者の理解のたすけとなるだろう。(ちなみに本書の口絵一四はノルウェー探検船 Fram 号のスケッチであるが、描かれている船形は柳原良平によるイラストに近い姿である)。末尾には南極関係の専門家による航海実績、測量技術などについての解説などが「資料」として添付されている。

当時の南極探検では、船舶による南極へのアプローチが探検活動における最大の課題であつた。氷海での航海は緊張の連続にちがいない。その様子が飾り気のない文章から率直

に読者に伝わってくる。補助機関にたよる動力走と帆走とを組み合わせて操船し、氷塊をすり抜け航行し、常に先頭をに立って難局を切り開く野村船長の先駆者としての苦心や情熱が、航海記の以下のような文章から伝わってくるのである。

「平原せる高水堤に沿い十海里沖までの氷塊のながるる其の様は航路殆ど無いとまでに閉じられ、併し之に驚き接近せぬ訳にはゆかぬ為め、船体の許す範囲内に於いて塊水と衝突は免がれぬ場合に立ち至りたり。兎も角水堤を距ること三―四海里の間を一刻も油断怠りなく縫航す。その内萬止むを得ず衝突。其都度責任なる我が身体を削り取るの気持ちであつたが恐るる斗りでは失敗疑いなき時に当たつて居る為め必死の勇氣を利用して氷海進入を続けつゝ……」(四八頁、原文のまま)

小さな木造船が、三角帆と補助エンジンの動力をたよりに氷塊を縫いながら航海する様子が読者に伝わってくる。海底の測深、採泥、地質サンプリング、海象・気象観察、地磁気偏差の補正などを続けながらの、無線もレーダーも、もちろんGPSなどはない時代の危険な航海であつた。変わりやすい天候、巨大なうねり、崩壊する氷塊を避け、刻々に変化する氷状のもと、太陽観測による位置測量など、限られた人員での操船では乗組員はおそらく不眠不休にちかい状況であつたにちがいない。しかし船長の心意気を本書から引用する、

「……氷海を航送するに當りて、其の困難の大なると雖も国民の同情に對し我等は覚悟

の上なれば何の厭ふべき時でない。併しながら余は船体の安全と共に乗組人員の保護に注意を払うを専心誠意なるものなり。」(五〇頁)

さらに以下のようにも、  
「余は船員に勇氣の一として沿岸隊は別として、われらは国民の義務を画す上に於いて当地付近は何れの探検家も注目せる場所であるから大いに奮闘しても沿岸に船を寄せ、而して上陸せば各国の探検隊を驚かす事、其の上、日本探検に未だ曾てなき有効と談じたり。之れ船員の快樂とし予は当地の探検に望む事と大なる興味を持ち極力努め居る。」(六八頁)

野村船長はこのような覚悟で南極に挑んだ。その活動は探検隊への支援活動のみにとられることなく、自らも探検に挑んだのである。その結果、上陸隊(突撃隊と呼んでいる)が氷原を探検している期間を利用して開南丸は突撃隊の上陸地を離れ、一月一九日より二月二日まで一四日間にわたり近隣海域の調査に従事した。まことに素晴らしい探検精神である。本書によれば、開南丸の乗員達は、この期間に近隣海域の海象調査、海底の採泥、地質調査、岩石サンプル採取などの学術的調査を実行した。これはすばらしい成果といえるであろう。野村船長としては、当然の行為、あるいは必須の任務と信じたであろう。しかし無線も、ヘリコプターもない時代である、探検船が基地を離れたこの行動が探検隊として妥当であつたかどうか、考えさせられる事例ではある。「過去の事例などから撤収は上陸よりも困難である」と船長自らも認めているが、この貧弱な南極探検隊唯一の

サポート船が、基地から連絡のつかない位置まで離れることは、非常なリスクである。事実本書によれば、基地への回帰は決して簡易ではなかつたようだ。幸い陸上隊全員が無事復員し、撤収も完了させ、開南丸はニュージーランドに向かうことができたのである。日本最初の南極探検隊は一人の犠牲者もなく日本に帰還したが、野村船長の独断とも思えるようなこの期間の開南丸の単独行は、どのように評価されているのであろうか？

自ら志願し、探検に挑み、困難に立ち向かつた先駆者の心意気とその喜びが、この文章からストリートに伝わってくるのである。わたくしはこの航海記を読んで、西堀さんの「南極越冬記」を連想した。探検へのあくなき熱意、十全なる事前調査、何物についても抱く強い興味、隊員の探検に対する情熱の欠如についての不満などが、各所に西堀さんを髣髴させるのである。野村船長が、目の前で激しく変化する南極の氷状をみて、何時の日かこの氷が融けて、貴重な鉱物が現れるかもしれない、と期待する様子なども、好奇心旺盛な西堀さんそのものである。

南極に行つたことのない私が、極地での活動について評価するのはふさわしくないかもしれないが、南極探検の実情がストリートに伝わる、読み応えのある一冊であろう。

本書によれば、船長 野村直吉は国内の航海経験を重ね、高等海員養成所で船長資格を取得後、欧州航路の船長として活躍した。「給料は望まず」と言つて探検隊の船長に自ら志願して応募した。ロス探検隊などによる過

去の記録から学び、この航海に臨んでいたようだ。出発時の年齢は四四歳であった。

開南丸の南極航海は、英国王立地理学誌でも高く評価されており、「開南丸という小船で南極大陸まで往復した英雄的行為により野村直吉の名は偉大なる航海者として記憶される」と評価している。(本書のカバーより抜粋)

参考までに歴史に残る探検隊の用船のサイズを列記する。

## 第二七回雲南懇話会の概要

前田栄三

第二七回雲南懇話会は、二〇一三年一二月七日(土)、東京市ヶ谷のJICA研究所で開催され、一三名の参加を得て盛会であった。懇話会終了後の茶話会には八〇名が参加され、講師の松沢哲郎会員(京都大学霊長類研究所教授)の本年度文化功労者顕彰を祝う、和やかな集いとなりました。雲南懇話会設立発起人を代表して松浦祥次郎会員が祝辞を述べ、松沢会員も参加した「JACCカンチエンジュンガ縦走登山隊、一九八四年」の登攀隊員も、片岡泰彦さんを始め多数駆けつけた。

講演の概要を以下に示します。

サンタマリア号 コロンブス隊 全長二四m  
ビクトリア号 マゼラン隊 全長一八―二二m (Wikipedia)

ビーグル号 ダーウィン 全長二七m  
テラノバ号 スコット隊 全長五二・三m  
フラム号 アムンゼン隊 全長三五・七m

開南丸 白瀬隊 全長三〇・四m  
宗谷(鉄製) 日本隊 全長八三・六m

\*柳原良平 一九七二年、「良平の海洋探検史」、朝日探検講座八、「探検と冒険」より

一、「シルクロード、悠久の歴史と人との出逢い」―玄奘三蔵の足跡を中心として―

サイクリスト、シルクロード雑学大学主宰

長澤法隆

一九九三年から二〇一二年までの二〇年の歳月をかけて、自転車で西安からローマまで走行した。参加者数は延べ四〇〇人超という。今回は西安からサマルカンドまでのオアシス、砂漠、天山山脈、イシク・クル湖畔、タラス河畔など等、多くの画像で紹介された。玄奘三蔵の足跡(ベデル峠など)や戦後のシベリヤ抑留者の活躍の様子等(キルギス、タシケントなど)、特に後者については知る人も少なく、往時を偲ぶことが出来ました。

二、「沢登りの地平を拓くもの」

―未知への探求、探検的沢登りの勧め―

渓谷探検家 成瀬陽一

日本の渓谷の素晴らしさを代表するものとして称名川を紹介された。落差三二〇mとい

う日本最大の称名滝、その落口から二km続く称名廊下の大峽谷地帯。日本に最後に残された地図上の空白地帯という。

海外では韓国、台湾はもとより、中国(福建省、雲南省、四川省)、ニューギニア、タスマニア島、カウアイ島、そしてレユニオン島へと沢登りを続けてきた。今、沢登りの地平線がうっすら見えてきたような気がしていると、その辺りの様子を画像を交え紹介された。世界の渓谷は可能性に満ちていると締めくくられた。

三、「モンゴル国西部のカザフ人」

―鮮やかな装飾に囲まれた日常生活―

千葉大学大学院人文社会科学学研究所  
博士課程 廣田千恵子

モンゴル国最西端にあるバヤン・ウルギー県に居住するカザフ人の日常生活、及び装飾品の利用について、紹介された。ウイと呼ばれる伝統的ユルタの内部は、女性の手芸によって作られた色鮮やかな装飾で溢れているとい、モンゴル国のカザフ人とその生活について、一八世紀以降の歴史、言語、生活風景など簡潔に紹介された。調査地域の美しい山や湖・草原、そこに住むカザフの人びとの素朴な暮らしぶりが印象に残った。

四、「日本人とチベット」

―河口慧海のチベット旅行を中心として―

高野山大学文学部教授 奥山直司

黄檗僧 河口慧海の足跡を日本からヒマラヤ・チベットへと辿りながら、日藏関係の

原点ともいうべき彼の探検行に秘められた夢と志について、語られた。明治二〇年代（一八八七年）から、日本仏教界には「入藏熱」（チベット入国熱）が起り、何人も青年僧がチベットを目指した。その中で最初にチベットの都ラサに到達したのは河口慧海（一八六六―一九四五）であった。話は、九品仏浄真寺境内の碑文、慧海の持つ宗家探検家↓学者という三つの顔、堺の鉄砲鍛冶・職人の血筋、一九〇〇年七月四日チベット国境到達（一九〇一年三月ラサ到着、克明日記、支援者・肥下徳十郎の存在、彼はスパイではないとのひと言、多くの植物標本を持ち帰った人物、ダージリンの佇まい、チョーマ・ド・ケレース（ハンガリー人）のチベット研究など等、多岐に亘った。

## 五、「比較認知科学からみた文化の進化的起源」

国際霊長類学会長、日本学術会議会員、  
京都大学霊長類研究所 松沢哲郎  
まずは自身の生い立ち、大学受験・山岳部

ご注意…この案内はAACK会員専用ですの  
で、AACK会員以外の方は、山岳共済会に  
直接お申し込みください。

## 日本山岳協会山岳共済会および 山岳遭難・搜索保険の案内

（二〇一四（平成二六）年度）

AACK事務局

入部の経緯が語られ、山岳部の年間約一二〇日に及ぶ活動と挫折、自身も参加したJACCカンチエンジュンガ登山隊に触れた後、山岳部が標榜したパイオニアワーク（スピリッツ）の研究領域での展開へと話が及んだ。チンパンジーと人間は共通の祖先を持つ。「ヒト科は四属」「チンパンジーは、教えない教育・見習う学習」から始まり、「人間とは何か」について、チンパンジーの研究を通じてチンパンジーそのものを知り、人間とは何かを深く知る、比較認知科学を概説された。

霊長類は人も含めたサル仲間であること、チンパンジーはヒト科であることを強調された。

新設間もない京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院のこと、京都大学とブータン王国との関わりに触れ、最後に、二〇一四年二〜三月頃に、雲南のキンシコウ（孫悟空のモデル）の調査を開始することを述べ、自身が梅里に（雲南に）行く…として講演を締めくくられた。

日本山岳協会の山岳共済会および山岳遭難・搜索保険の二〇一四年度の加入方法などの案内です。加入を希望される方は下記の要領で手続きを行ってください。

この山岳遭難・搜索保険は、「日本山岳協会山岳共済会」が契約者となる団体傷害保険です。したがって、この保険を申し込み、被保険者（補償の対象者）となるには、「日本山岳協会山岳共済会」の会員になる必要があ

ります（保険加入と同時に申し込む）。AACKでは、この保険に加入する条件として、山行の一週間前に、AACK担当者へ登山計画書を提出することとしていますので、ご承知おきください。これは山岳共済が定める保険金支払の条件ではありませんが、保険対象となる事故発生時にAACKが会員の皆様に対して対応するときに山行内容を把握しておく必要があるために対応をお願いしているものです。

海外山岳コースの保険に加入すると海外登山での遭難搜索費用等が支払われ、国内・海外両方に加入されていると、加入コースにより両方から保険金が支払われます。山岳共済会の海外保険の加入の有無に拘わらず、海外登山やトレッキングの場合も必ず山行計画書を提出して下さい。

現在、制度の運用に必要な業務は横山宏太郎様、永田 龍様にご協力をいただいています。連絡先などを間違えないよう、ご注意ください。

前年度から保険料が変更されました。また、補償の範囲も少し変わっています。変更点は最後にまとめてありますのでご覧ください。

### 一、山岳遭難・搜索保険の種類

（一）登山の内容により、「登山コース」と「ハイキングコース」があります。登山コースは、ピッケル・アイゼン・ザイル等を使う登山やロッククライミング、冬山登山などを対象とします。登山コースには、保険金額と、入院保障の有無で、八タイプがあります。ハイキ

ングコースは初心者でも可能な一般登山道での普通の登山（夏山登山で雪渓を越えるために軽アイゼンを使用した場合も対応する）が対象です。ハイキングコースの場合は登山コースと異なり、疾病が原因となる搜索費用は補償の対象となりません。ハイキングコースには、保険金額の異なる二タイプがあります。

個人賠償責任補償のないタイプもあります。個人賠償責任補償のないタイプに照会となっております。山岳共済会としては、個人賠償付きを薦めています。

以上の中からいずれか一つだけ、希望のコース・タイプを選んで加入します。それぞれの保険料に、年会費一〇〇〇円を加えた合計支払金額を払い込みます。

(二) 登山コース、ハイキングコースのいずれも山行中のみならず、日常生活でのケガも補償の対象になります。

(三) 通年の場合、期間は毎年四月一日午前〇時から翌年四月一日午後四時までです。継続の方は、前年度の契約終了の四月一日午後四時から、新年度の契約が有効となります。中途加入も受け付けられます。保険料は開始月ごとに設定されています。

(四) 海外での登山やトレッキングを対象にする海外山岳コースは、基本契約タイプの場合、保険金額は次のとおりです。昨年と同様に、遭難搜索費用には緊急救助ヘリコプター費用も保証されることを確認しています。

- 死亡・後遺障害 一〇〇万円
- 救済者費用 五〇〇万円
- 個人賠償責任 一億円

## 登山コース保険料(4月1日加入の場合)

### 入院補償付タイプがおすすめ!

昨年からの1年間\*で入院は170件、通院は371件のお支払い事実がありました。(※平成24年10月1日～平成25年10月1日の支払実績)  
1Bタイプ・1Cタイプ・1Dタイプ・1Eタイプなら、ケガによる入院にも備えることができます!



## 職種級別A

(1) 保険始期日が4月1日の方

保険金額	〈「登山コース」〉									
	契約基本タイプ									
タイプ名	1S	S	1B	B	1C	C	1D	D	1E	E
傷害死亡・後遺障害※1	100万円	100万円	150万円	150万円	200万円	200万円	300万円	300万円	500万円	500万円
遭難搜索費用	100万円	100万円	150万円	150万円	200万円	200万円	300万円	300万円	500万円	500万円
傷害入院保険金日額	1000円		1000円		1500円		2000円		2500円	
傷害手術保険金※2	○	なし	○	なし	○	なし	○	なし	○	なし
傷害通院保険金日額	600円		600円		900円		1200円		1500円	
個人賠償責任※3	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円
<b>年間保険料</b>	<b>6,660円</b>	<b>3,970円</b>	<b>8,410円</b>	<b>5,720円</b>	<b>11,490円</b>	<b>7,460円</b>	<b>16,330円</b>	<b>10,950円</b>	<b>24,640円</b>	<b>17,920円</b>

- ※1 傷害後遺障害保険金については、後遺障害の程度に応じて、傷害死亡・後遺障害保険金額の100%～4%をお支払いします。
- ※2 傷害手術保険金は、入院中に受けた手術の場合は傷害入院保険金日額の10倍、それ以外の手術の場合は傷害入院保険金日額の5倍をお支払いします。
- ※3 個人賠償責任の補償がないタイプは日本山岳協会山岳共済事務センターまでお問い合わせください。

## ハイキングコース保険料（4月1日加入の場合）

### 職種級別A

(1) 保険始期日が4月1日の方

#### 通院補償付タイプがおすすめ!

昨年からの1年間\*で入院は170件、**通院は371件**のお支払い  
 事案がありました。(\*平成24年10月1日～平成25年10月1日の支払実績)  
 IIタイプ・IIIタイプなら、ケガによる通院にも備えることができます!



〈「ハイキングコース」〉			
保険金額	契約基本タイプ		
タイプ名	I	II	III
傷害死亡・後遺障害(*1)	150万円	250万円	300万円
救援者費用	300万円	300万円	500万円
個人賠償責任(*2)	1億円	1億円	1億円
傷害入院保険金日額	2,000円	4,000円	5,000円
傷害手術保険金	入院中に受けた手術の場合は傷害入院保険金日額の10倍、それ以外の手術の場合は傷害入院保険金日額の5倍をお支払いします		
傷害通院保険金日額	なし	1,500円	2,500円
<b>年間保険料</b>	<b>2,240円</b>	<b>5,900円</b>	<b>8,180円</b>

(\*1) 傷害後遺障害保険金は、後遺障害の程度に応じて、傷害死亡・後遺障害保険金額の100%～4%をお支払いします。

(\*2) 個人賠償責任の補償がないタイプは日本山岳協会山岳共済事務センターまでお問い合わせください。

保険料は、対象の山岳、日数により個別に見積もられることになっていきますので、海外登山又はトレッキングに行かれる方は、事前に横山様を通じ山行計画を提出して、保険料の見積もりを取得して下さい。国内と同様に、山岳共済会の会員であることが加入の条件になります。国内の山岳遭難・捜索保険に加入している場合は、一部は海外でも保険対象となります。

ほかに、治療・救済費用が補償されるタイプもあります。詳しくはお問い合わせください。

#### 二、加入の手続き

加入を希望する方は、必要事項を明記した電子メールまたは加入申込書を、AACKの指定する山岳共済担当者（横山宏太郎様）に提出し、指定の銀行口座に保険料十年会費一〇〇〇円を振り込んでください。

(一) 申込必要事項（書式自由、なるべくメール本文に記入してください）。

- ① 氏名（フリガナ）
- ② 生年月日（例：昭和二三年五月二一日）
- ③ 郵便番号と住所（フリガナ）
- ④ 電話番号、FAX番号
- ⑤ 電子メールのアドレス（ある場合）
- ⑥ 職業名・職種名
- ⑦ 加入コース・タイプ、振り込み金額（保険料十年会費の合計額）
- ⑧ 同種の危険を補償するための他の保険契約があるか（傷害保険だけで結構です）

ある場合は、被保険者氏名、保険種類、死

亡・後遺障害保険金額、入院保険日額、通院保険日額を記載

⑨過去三ヶ年間にケガで保険金(五万円以上)を請求又は受領したことがあるか

ある場合は、被保険者氏名、保険会社、回数、合計金額を記載

(二) 担当者の連絡先は次の通りです。原則として電子メールでお送り下さい。

電子メール： peng-y@amy.hi-ho.ne.jp

FAX： 025-524-8216

郵便： 〒 943-0832 上越市本町 2-1-12-

801 横山宏太郎

(三) 保険料・年会費の振込口座(申込みと同時に振り込んでください)

銀行： 第四銀行稲田支店(ダイシギンコウイナダシテン) 店番号五一四

口座番号： 普通預金二二四一九三一

名義： A A C K 山岳保険 横山宏太郎

(エーエーシーケー) サングクホケン ヨコヤマコウタロウ)

(四) 四月一日からの保険加入の締め切りは三月一〇日です。時間がないのでとりあえず担当者(横山様)へ、電子メールまたはFAXで申し込みの連絡をしてください。

(五) 手続き完了の翌月に日本山岳協会から会員証(加入者証)が担当者に送付されてきますので、担当者から本人に転送します。会員証の有無は保険の効力には影響ありません。

### 三、その他

(一) 詳しい内容等は、山岳共済会の山岳遭難・搜索保険の案内パンフレットを、A A C Kの

ウェブサイトに置きましたので、内容を確認してください。

(二) 日本山岳協会のホームページにも説明があります。ただし、情報の年度にご注意ください。

山岳共済会 <http://sangakukyousai.com/>

(三) 山岳共済に関する疑問点や、更に詳しい説明が必要な場合は、担当の横山様にお問い合わせください。原則として電子メールでお願いいたします。アドレスは peng-y@amy.hi-ho.ne.jp です。

### 二〇一四(平成二六)年度の補償範囲の変更等について

この件について山岳共済会に問い合わせし、回答を得ましたので、それをもとに以下のとおりまとめました。

#### 一、個人賠償責任補償について

二〇一四(平成二六)年度からは登山コースの賠償責任保険が日本国内のみではなく、日本国外でも補償の対象となりました。ハイキングコースでは、これまでも日本国外でも補償の対象でしたので、これで両コースとも、国内・国外とも補償の対象となりました。

#### 二、傷害手術保険金について

これは、傷害入院保険金についているタイプだけが対象です。

二〇一四(平成二六)年度からは傷害手術

保険金の支払対象が入院を伴う手術のみではなく、入院以外での傷害手術も対象となります。但し、支払金額は入院を伴う手術の場合は傷害入院保険日額の一〇倍、それ以外の手術の場合は傷害入院保険日額の五倍となります。(支払金額もこれまでと変わっていません。)

#### 三、屋外人工壁クライミング

二〇一四(平成二六)年度からは、屋外での人工壁におけるクライミングがハイキングコースでも対象となります。ただし、安全確保のためのロープを使用するものに限りです。

#### 四、死亡保険金額

登山コースの1B、B、1C、Cの死亡保険金の金額が変更になっております。

1B、Bではこれまでの一五九万円が一五〇万円に、1C、Cでは二三五万円が二〇〇万円に変更されました。

#### 五、傷害後遺障害保険金

後遺障害の程度に応じて支払われる金額が、傷害死亡・後遺障害保険金額の一〇〇%、四%となりました。(これまでは一〇〇%、三%でした。)

#### 六、登山コースのタイプ追加

登山コースに、1Dタイプ、Dタイプが追加されました。

以上

## 事務局連絡

二〇一四年度一般社団法人京都大学学士山岳会総会の日程が決まりました。詳細は、後日あらためてご案内いたします。

日時 二〇一四年五月一日(日)

総会 午後3時～4時

講演会 午後4時～5時

懇親会 午後5時～7時

場所 京都平安ホテル

京都市上京区烏丸通上長者町上ル

電話 075-432-6181

AACK事務局

## 会員動向

### 編集後記

節分を過ぎても寒い日があり、また太平洋側でも大雪が降ったりしています。皆様いかがお過ごしでしょうか。当地、上越市(昔の高田)はこれまでのところ積雪は少なめで助かっています。

今回も、いろいろな分野の原稿がそろいました。ご寄稿いただいた皆様にお礼申し上げます。北大山岳館(芳賀さん)は機会があれば私も訪問したいところです。高山病とUIAA登山倫理宣言(中島さん)、書評(沖津さん)はたいへん勉強になりました。雲南懇話会(前田さん)はいつもどおり興味深い内容です。

一月に東京で行われた、AACK関東会と笹ヶ峰会の合同新年会に出席しました。多くの先輩方のお元気な様子を見て、ぜひそ

れのお立場からのご寄稿をいただきたいと思  
いました。当日も申しましたが、どうぞよろ  
しくお願いたします。  
横山宏太郎

次号原稿締め切り 二〇一四年四月三〇日

発行日 二〇一四年二月末日

発行者 京都大学学士山岳会 会長 松林公蔵

発行所 〒606-8801

京都市左京区吉田本町(総合研究二号館四階)

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究

研究所 竹田晋也 気付

編集人 横山宏太郎

製作 京都市北区小山西花池町一―八

(株)土倉事務所